

やる気発生装置

中学(1,2年)		高校(1,2年)					高校入試	
大谷	京都工学院	紫野	堀川	鴨沂	桃山	北稜	公立中期	
3/4~	2/25~	2/26~	3/3~	3/3~	3/3~	3/4~	3/6	
学年末テスト	学年末考査	学年末考査	学年末考査	学年末考査	学年末考査	学年末考査		
あと1日	4日目	3日目	1日目	1日目	1日目	あと1日	あと3日	

月食の晩、世界には戦いの影が



半年前の月食のときに夜ふかしして撮った写真です。今晚は見れるかどうか分かりませんが、月面上に地球の影がうつる日。地上にまた戦禍の影が落ちることのないよう祈るばかりです。

きょうの京都、昨晚からの雨が降り続いております。天気が良ければ夜には皆既月食が見られるはずなんです、どうも望み薄のようです。僕はつい半年前の月食をわりとじっくり見させてもらいましたので今回はまあいいかな、とは思いつつも、雲が晴れることを望みます。次回の月食は2029年らしいです。これからの人生が長い皆さんにはまだまだ何度も機会があることでしょう。

世界の動きが激しいです。アメリカによるイランへの爆撃があり、最高指導者が殺されたというニュース。この戦乱の影響で、また原油の価格、さらにはガソリン代や電気代その他さまざまなものの値段が上がりそうだという報道があふれています。遠い国での戦乱が、我々の生活にも影を落とすような気配です。トランプ大統領は、「4週間ほどの作戦で事態を安定させる」と言っているそうですが、どうでしょうか。どんな戦争でも、「これから何年もかけて戦争をするぞ」と言って始まる戦争はあまり考えられなくて、だいたい1ヶ月くらいで片付くつもりで始めて長引いていくものだという気がします。ウクライナももう4年経っていますね。

こういう争いが起こったとき、つい誰かを「許せない悪者」と認定してしまいがちです。現実にはどちらかの立場に立たないといけません。善と悪の戦いなんてものはまずなくて、実は立場が異なる正義が衝突しているんだということは意識しておきたいです。伝え聞くところでは、イランの国民の間には指導者の死で祝祭ムードが高まっているのだとか。自国のリーダーが殺されたのにどうして喜んでいいのか、本当に喜んでいいのか、どういう経緯があってそうなるのか、疑問がたくさん出てきます。こういうとき自分なりに理解し判断するためには、生の情報を得るための言葉の力や、矛盾を見抜くための論理の力が必要で、日々の学びはそういうものにつながるはずだと信じています。月食の晩、さしあたっては、そんな学びの場をいつものようにしっかり提供したいという思いです。

当面の教室予定

3/3(火)~3/5(木)

★早朝学習会あります★

7:00~8:10

16:00~22:00

3/6(金)

16:00~22:00

※21時以降、教室に生徒が残っていない場合には閉室させていただきます。

※天候や各種感染症の状況等により、変更させて頂く場合があります。

※3/11~16は新年度準備のため休講とさせていただきます。

明日3/4(水)のテスト

学校/学年	教科	
大谷	2	国語乙/家庭
紫野	1	家基/言文
堀川	2	文国/論表I
鴨沂	2	古典/化学/家庭
桃山	2	論表/地理/数II
北稜	2	英コII/数II

神秘の天体ショー：皆既月食の仕組みと歴史

太陽・地球・月が一直線に並び、月が地球の影に完全に隠れる「皆既月食」について解説。なぜ月が赤く染まるのかという科学的理由から、アリストテレスやコロンブスにまつわる歴史のエピソードまでを網羅しています。

月が赤く染まる科学的な仕組み

太陽・地球・月が宇宙で一直線に並び、月が地球の「本影」の中に完全に入り込むことで皆既月食が起こります。

地球の大気が「レンズ」の役割を果たす。波長の長い赤い光だけが大気を通り抜け、屈折して月の表面を照らします。

幻想的な「赤銅色（しゃくどういろ）」の月夕焼けが添いのと同じ理屈で、月は怪しくも美しい赤色に染まります。

地球が作る2種類の影の違い

	本影（ほんえい） 太陽の光が完全に遮られる最も濃い影
	半影（はんえい） 太陽の光の一部が遮られている薄い影

人類と月食の歴史的な関わり



コロンブスによる先住民との交渉
月食の予測を利用し、神の怒りとして先住民の食料を得た逸話があります。



アリストテレスが発見した「地球の形」
月に映る影が常に丸いことから、地球が球体であることを確信しました。



古代の人々が抱いた「畏怖」
かつては月が怪物に食べられていると考えられ、不吉な予兆とされていました。

夜空に浮かぶ満月が、まるで魔法にかけられたようにじわじわと欠けていき、やがて怪しくも美しい赤銅色に染まる。それが皆既月食です。この不思議な現象は、太陽と地球、そして月が宇宙で一直線に並ぶときに起こります。

月は自分で光っているわけではなく、太陽の光を反射して輝いています。ところが、太陽の光を浴びた地球の後ろ側には、長い影が伸びています。月が公転の途中でこの地球の影の中にすっぽり入り込んでしまうと、太陽の光が遮られて月食が始まります。影には、太陽の光が一部届く半影と、完全に遮られる本影の二種類があります。月が本影に完全に入り込むのが皆既月食です。

真っ暗になるはずの月が赤く見えるのは、地球の大気がレンズのような役割をするからです。太陽の光のうち、青い光は大気で散らばってしましますが、波長の長い赤い光だけは弱まりながらも大気を通り抜け、わずかに屈折して月の表面を照らします。夕焼けが赤いのと同じ理屈で、月は幻想的な赤色に染まるのです。

歴史を振り返ると、この現象は人々に大きな衝撃を与えてきました。古代の人々は、月が怪物に食べられていると考えたり、不吉な予兆だと恐れられました。有名なエピソードに、探検家コロンブスの話があります。航海中にジャマイカで食料不足に陥った際、彼は天文書から月食が起こることを知り、先住民たちに、神が怒って月を消してしまうと告げました。実際に月が欠け始めると、驚いた人々は慌てて食料を差し出したと伝えられています。

しかし、一方で月食は科学の発展にも貢献しました。古代ギリシャのアリストテレスは、月食のときに月に映る地球の影がいつでも丸いことに注目し、そこから地球が球体であることを確信しました。現代の私たちにとって月食は、宇宙のスケールの大きさを実感させてくれる天体ショーです。次に月が赤く染まる夜は、遠い昔の人々が抱いた驚きや、地球の形に気づいた賢者たちの視点に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。